に以下の三点を柱として積極的に事業展開する．すなわち，参加者にとって有意義で魅力ある大会とするよう改革を進めること，次世代を担う若手の会員候補にとっても魅力的大会とすること，及び生涯教育の時代にかんがみ，広く非会員をも対象とする講演会の企画・実施を通じて社会への貢献に取り組むことである．

[研究会・シンポジウム関係]

これまで，既存の第一種研究専門委員会の研究活動をより促進するとともに，学術研究集会(国際シンポジウム)，第二種・第三種研究会の活動の活性化を支援し，新しい研究分野の開拓に努力してきたが，一層この方向における活性化を進める．また，ソサイエティ活性化基金を有効利用し，本会においてあるべき分野を創成すべく，異分野の研究者との交流を招待講演・シンポジウムを通して進めるとともに，これらによって触発された若手が新たな分野を展開しやすい環境を作る．

[論文誌，ホームページ，ニューズレター，国際化関係]

インターネットの利用による会員サービスの充実やソサイエティ活動の効率化・国際化について本部事業に連携して進めていく方針で引き続き進める．論文誌は質の向上・時間の短縮が本質的に重要であり，これによる若手会員・海外会員の獲得は学会の基本である．一方，単なる紙を冊子化して郵送した時代からITの発達により表現方法・配布方法も新たな可能性が出てきたことにより，基本にのっとった上で，あるべきサービスの検討とその実現に取り組むことで魅力のある学会，所属すると御利益のある学会となるよう努力する．

◎ 通信ソサイエティ

昨今の経済情勢は厳しさを増しているが，ネットワークが隅々まで行きわたった，いわゆるユビキタス社会の実現に向け，モバイル，光，デバイス技術を核とした高速・高信頼情報通信システムを産官学の協力のもとに実現することが今後の重要な推進課題と考えられ，通信ソサイエティの社会的貢献はこれまで以上に重要となっている．通信ソサイエティでは，研究会の活性化，ソサイエティマガジン・Webサイトの魅力向上につき鋭意審議を重ねており，平成14年度には具体的な姿が見えてくるものと考えられる．また，紙ペースのニューズレターを廃止し，電子媒体の活用を含めた新たな情報発信手法を定着させる検討を行っている．これまで行ってきた海外会員獲得の取組みを継続的に行う予定であり，ワークショップHPSR (High-Performance Switching and Routing) 等においてキャンペーンを実施する．

更に，総合大会，ソサイエティ大会における英語セッションも引き続き開催し，将来のソサイエティ大会の海外開催を視野に入れつつ，通信ソサイエティのグローバルな展開の基礎を築く予定である．

◎ エレクトロニクスソサイエティ

エレクトロニクスソサイエティでは，会員にとって魅力あり，グローバルに通用するソサイエティを目指し，以下の観点からソサイエティ活動を行う．

平成13年度，当ソサイエティではソサイエティの独立採算化の検討とも関連して，ソサイエティの独自性について大いに議論された1年であった．和文論文誌の全員配布，英文論文誌の作成費用と定価のミスマッチ問題などソサイエティの運営の根幹にかかわる案件もあり継続的な審議検討が必要との認識がもたれた．また，ホームページ，情報のオンライン化など，WEBを充実し若い人を引き込むような活動の重要性が再認識され，ソサイエティに電子化推進委員を新設したが，その推進は必ずしも容易ではない．一方，ソサイエティ活性化基金を利用して，「ベンチャービジネス研究会(第三種)」を新たに発足させ，この研究会と連動して学会活動の電子化推進を図る目的で「フォーラムe-ソサイエティ研究会（第三種)」も活動を開始しており，今後の進展が注目される．

IT革命とともにスタートした21世紀が，早くもIT不況に陥っている昨今，技術立国として立ちいくことが求められている我が国の，特に若い研究者・技術者が元気を出して研究活動にまい進できる横連携・研さんの場を“エレクトロニクスソサイエティ”が提供できるよう運営していきたい．若い研究者（学生）の海外国際会議への支援補助制度を拡充するとともに，従来の国際活動支援制度を発展・拡充して，萌芽的研究分野，あるいはソサイエティの活性化につながる分野の国際会議開催などの活動支援を継続的に行う．

なお，ソサイエティ独自の取組みである，エレクトロニクス賞・レター論文賞，大会におけるプレナリーセッション，複数研究会の合同開催の場であるサマーミーティングを今後も継続し，ソサイエティの特色としていく．

◎ 情報・システムソサイエティ

情報・システムソサイエティでは，幸いにも非常に多くの論文を和・英論文誌に投稿して頂いている．そこで本年度は，英文論文誌については海外から編集委員を招いたり，英文品質について組織的に改善を図る等，真の国際誌となるように努める．また，和・英論文誌共に，論文の品質を高めたり，新しい芽を育てていくために，論文執筆要領や査読要領などの啓発に努める．

一方，掲載論文数の増加は経済的負担の増加につながるので，電子化等の経費節減の努力を継続的に重ねる．また，ソサイエティにおける各種事業収入と併せて，総合的に財務体質強化を図る．

平成14年度秋には従来のソサイエティ大会に代えて情報処理学会と共同で「情報科学技術フォーラム（FIT)」を開催する．我々はこのフォーラムを，今後の情報・システム分野の大規模総合大会のあり方の見直しとともに，経営資源を踏まえた新しい形態を模索する試金石と位置付けている．

平成14年1月には，IEEE及びIEEE Computer Societyと会員相互の優遇措置について協定を結んだ．これを契機に，国際交流もますます推進していきたい．

◎ ヒューマンコミュニケーショングループ

インターネットの高度化やブロードバンドネットワークの普及が期待され，世界中のだれもが恩恵に浴せる（べき）高度情報化社会が急激に実現されつつある．これらの「環境」を有効に利用するため，人間中心の，すべての人にとって優しく，使いやすいシステムの構築を目指す必要がある．

ヒューマンコミュニケーショングループは，このような社会の要望にこたえるため，広範な技術とともに人間そのものに深くかかわる心理学や社会学なども対象とし，各ソサイエティに横断的に，かつ他学会とも自由に連携するために設置され，その活動を続けている．

本年度は，多くの学問分野の人々が協働する「インタラクションによる知識の創生に関する研究会(時限研究専門委員会第二種)」が新たに活動を開始するとともに，市民講座を含む企画セミナーや，他ソサイエティ・学会と協力して年次大会を実行していく等，オープンで，柔軟な活動を続けていきたい．また，グループ設立当初の目的を再確認し，新たな分

野間の研究交流の場を作り続けられるよう，情報発信を工夫していく．

1. 大会に関する事項

1.1 2002年総合大会

期　日　　平成14年3月27日（水）～30日（土）
場　所　　早稲田大学理工学部（東京都新宿区）

講演件数は約3,300件，懇親会は3月28日（木）リーガロイヤルホテル早稲田（新宿区）で開催．

1.2 2003年総合大会

次により開催する．

期　日　　平成15年3月19日（水）～22日（土）
場　所　　東北大学川内北キャンパス（仙台市）

講演件数は約3,200件が見込まれる．

1.3 2002年ソサイエティ大会

基礎・境界，通信，エレクトロニクスの3ソサイエティ合同で次により開催する．

講演件数は1,800件程度と考えられ，特別企画の充実等により各ソサイエティの特色を発揮するよう努める．

期　日　　平成14年9月10日（火）～13日（金）
場　所　　宮崎大学（宮崎市）

1.4 情報科学技術フォーラム（FIT）2002

情報・システムソサイエティと情報処理学会合同で次により開催する．

期　日　　平成14年9月25日（水）～28日（土）
場　所　　東京工業大学大岡山キャンパス（東京都目黒区）

2. 国際会議に関する事項

各ソサイエティは，主催・共催の国際会議を次のとおり開催する．

（1） COOL Chips V：2002.4.18～19（東京：機械振興会館）[ES]
（2） 高性能スイッチ及びルータに関するワークショップ2002（HPSR 2002）：2002.5.27～30（神戸：神戸国際会議場）[CS]
（3） 2002年通信品質と信頼性国際ワークショップ（CQR2002）：2002.5.14～16（沖縄県名護市：万国津梁館）[CS]
（4） 第7回光エレクトロニクス・光通信国際会議（OECC2002）：2002.7.8～12（横浜：パシフィコ横浜）[CS,ES]
（5） 2002 International Technical Conference on Circuits/Systems, Computers and Communications (ITC-CSCC 2002)：2002.7.16～19 (Phuket Arcadia, Phuket, Thailand) [ESS]
（6） 2002 International Symposium on Nonlinear Theory and its Applications (NOLTA2002)：2002.10.7～11 (Xi'an International Conference Center, Xi'an, PRC) [ESS]
（7） 2002 International Symposium on Information Theory and Its Applications (ISITA2002)：2002.10.7～11 (Xi'an International Conference Center, Xi'an, PRC) [ESS]
（8） 第7回ハイアシュアランスシステム国際会議（HASE2002）：2002.10.23～25（東京）[ISS]
（9） マイクロウェーブフォトニクスに関する国際ワークショップ（MWP'02）：2002.11.5～8（淡路夢舞台国際会議場）[ES]
（10） 2002年アンテナ伝播国際シンポジウム（ISAP i-02）：2002.11.27～29（横須賀：横須賀リサーチパーク（YRP））[CS]
（11） ヘテロ構造マイクロエレクトロニクス会議（TWHM2003）：2003.1.21～24（沖縄：万国津梁館）[ES]

3. 出版に関する事項

3.1 論文誌

和・英論文誌ともそれぞれ，各ソサイエティにおいて編集を行うこととする．

また，13年度に引き続き，和・英論文誌のCD－ROM作成，和・英論文誌の電子公開を継続することとする．

ア．和文論文誌
　本文総ページ数　8,920ページ
　　（論文770件，レター106件）
　年間発行部数　538,800部（月平均44,900部）

イ．英文論文誌
　本文総ページ数　9,500ページ
　　（Paper858件，Letter182件）
　年間発行部数　120,000部（月平均10,000部）

◎ 基礎・境界ソサイエティ

	（和文論文誌）	（英文論文誌）
	1,600 ページ	3,230 ページ
〔内　訳〕		
一般論文・レター	1,100 〃	
一般 Paper・Letter		940 〃
特集・小特集	330 〃	2,090 〃
（和文 2回，英文13回）		
英文論文誌紹介	25 〃	
和文論文アブストラクト		50 〃
総目次	12 〃	30 〃
その他	133 〃	120 〃

◎ 通信ソサイエティ

	（和文論文誌）	（英文論文誌）
	2,400 ページ	2,590 ページ
〔内　訳〕		
一般論文・レター	1,720 〃	
一般 Paper・Letter		1,660 〃
特集・小特集	510 〃	710 〃
（和文 3回，英文5回）		
英文論文誌紹介	35 〃	
和文論文アブストラクト		60 〃
総目次	15 〃	30 〃
その他	120 〃	130 〃

◎ エレクトロニクスソサイエティ

	（和文論文誌）	（英文論文誌）
	1,380 ページ	1,800 ページ
〔内　訳〕		
一般論文・レター	910 〃	
一般 Paper・Letter		420 〃
特集・小特集	300 〃	1,160 〃
（和文 2回，英文12回）		
英文論文誌紹介	25 〃	
和文論文アブストラクト		45 〃
総目次	12 〃	30 〃
その他	133 〃	145 〃